

葛尾村中心拠点等整備計画 第 3 回 検討委員会

議事次第

日 時：平成 26 年 12 月 18 日(木)
13：30～15：30 （約 2 時間 00 分）
場 所：葛尾村三春出張所 大会議室

1. 開会・あいさつ

2. 議題

（1）第 2 回検討委員会の振り返りと今回の議論の位置づけ

1）第 2 回検討委員会の振り返り【資料説明（P. 1-2）】

2）今回の議論の位置づけ【資料説明（P. 3）】

（2）賑わい拠点の具体的な整備方向（修正案）について

1）賑わい拠点の具体的な整備方向（修正案）【資料説明（P. 4-10）】

2）賑わい拠点に係るソフト施策アクション（案）【資料説明（P. 11）】

3）意見交換【全体で】

3. 閉会（次回の予定など）

（１）第２回検討委員会の振り返りと、今回の議論の位置づけ

１）第２回検討委員会の振り返り

～本検討方向に係る主な意見と、今後の対応方針～（詳細の議事要旨は p12 以降を参照）

主な意見の概要	今後の対応方針
■素案の良いところ ○まずは拠点整備が大切である。帰還促進につながるものであり、やれるところから進めていくべき。 ○ワンストップサービスの方向はとても良い。 ○高齢者向け住宅を、医療や様々なサービスを受けられる便利な場所に整備するのは安心できてとても良い。	
■拠点整備方向案への要望 ○JA は、金融・販売等のフルサービスが整った支店機能の再開をH27 年度中に予定している。農業用施設と倉庫等の拡充を計画しており、敷地拡大も含めて村に支援要望と調整を行なっているところ。 ○商店再建のバックアップも必要。 ○高齢者等の安心のためには、ドクターヘリなど救急対応の強化も重要。 ○既存公共施設の有効活用も重要。（せせらぎ荘の宿泊受け入れなど） ○若者の帰還意欲の増進を強く掲げるべき。子どもと触れ合うことが高齢者の大きな喜びとなる。若い人をお願いしてでも帰ってもらふべき。 ○若者の帰還を促進するには、必要とされていること（役割・意義）を明確にするとともに、支援を強化する方向も有効。 ○高齢者と子供が”共に学ぶ”ことを強調し、一緒に学校に行ったり、温水プールを利用（健康増進面でも有効）する方向も有効。 ○放射能を正しく理解し、”線量のある自然との共生”のために何をすべきか考え、葛尾村の特性を踏まえたエコ・コンパクトビレッジを浸透させていくべき。ゼロから木を植えて、皆で共有できる山を作り出すのも有効。 ○放射線量の計測については、JA 関連施設の商業ベースの機能と、住民の安心のための機能についてはレベルが異なり、分けて考えるべき。	○JA の事業意向を十分に踏まえつつ、拠点全体の活性化につながる相乗効果の高い方向を検討していく。 ○支援方向を検討中である。 ○ヘリポートは地域活性化センター前にあり、円滑な救急対策に活用していく。 ○意見を踏まえ、本整備計画や今後の取組みに反映していく。 ○(同上) ○(同上) ○(同上) ○(同上) ○(同上)

○放射能の村内(村民自身)の風評被害が生じないよう、きめ細かく安心の情報発信を。 ○外部からの転入者の支援(住宅支援など)も必要。 ○太陽光導入による光熱費の削減や、再生可能エネルギー利用による農林畜産業等の産業振興や雇用創出を進めていくべき。 ○優先順位が大事。	○意見を踏まえ、本整備計画や今後の取組みに反映していく。 ○(同上) ○(同上) ○(同上)
■その他の復興まちづくりへの要望 ○帰村したい人の住宅支援(小規模住宅の提供、復興住宅の条件緩和など)を。 ○帰村したい人への支援を。支援を手厚くしていく方向も有効。 ○湯ノ平周辺地区など、人口沼周辺の自然公園化、河川沿いの散策路、舞台利用可能な道路整備等を考えている。	○既存制度の積極的活用、国・県への要請とともに、独自施策も検討していく方針 ○意見・アイデアを踏まえ、今後の復興の取組みに活かしていく。
■その他の要望や意見 ○帰りたい人よりも帰らない人に支援が手厚いような気がする。説明不足であり、もっと情報発信を。 ○もっと住民の声に寄り添う行政を。	○意見を踏まえ、今後取り組んでいく方針。

(2) 賑わい拠点の具体的な整備方向(案)について

1) 今回の議論の位置づけ

平成26年10月30日(木)開催

10月	検討委員会①
	検討方向と、事業化意向・要望の把握
	1) 本計画と検討委員会の位置づけ、委員紹介【25】 2) 計画検討の進め方【5】 3) 賑わい拠点整備、エコ・コンパクトビレッジ展開の重点検討対象と、整備方向【85】 4) その他【5】

↓ 平成26年11月26日(水)開催

11月	検討委員会②
	賑わい拠点の具体的な整備方向
	1) 前回振り返り【15】 2) 賑わい拠点の具体的な整備方向案【85】 ① 復興交流館(賑わい拠点、生活支援拠点) ② 商店再建支援、中心機能連携 ③ シンボル環境整備 ④ その他(公的住宅など) 3) その他【5】

↓ 平成26年12月18日(木)開催

12月	検討委員会③
	賑わい拠点に係るソフト施策案
	1) 前回振り返り【15】 2) 賑わい拠点等整備方向・修正案【15】 3) 上記に係るソフト施策アクション案【85】 4) その他【5】

↓ 平成27年1月23日(金)頃 開催予定 同日開催予定

1月	検討委員会④	分科会①
	整備基本計画案	再生可能エネルギーの展開方向案
	1) 前回振り返り【15】 2) 賑わい拠点等整備計画イメージ案【75】 ① 土地利用、動線計画図 ② 拠点施設配置・整備イメージ ③ 整備プログラム 3) 上記に係るソフト施策・修正案【25】 4) その他【5】	1) 賑わい拠点と連携した再生可能エネルギーのモデル導入方向案(ハード、ソフト)【80】 2) 広域的な拠点づくりの方向案【35】 3) その他【5】

↓ 平成27年2月中旬 開催予定

2月	検討委員会⑤
	整備基本計画・最終案
	1) 中心拠点整備計画・最終案【60】 2) 広域的な拠点づくりの方向・最終案【30】 3) その他施策との連携方向や、課題の整理【15】 4) パブコメ方針と概要資料案【10】 5) その他【5】

パブリックコメント

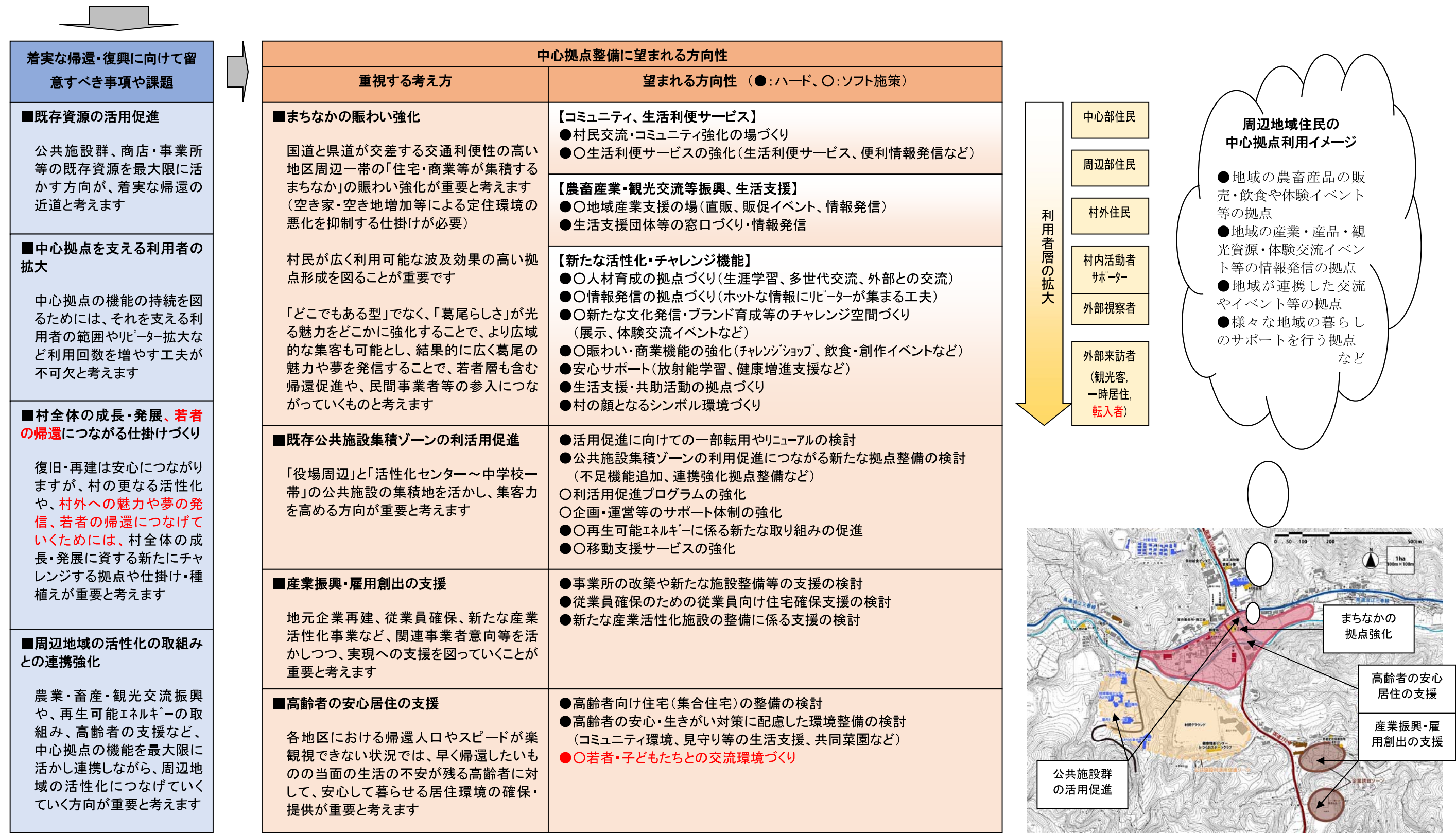
平成27年2月21日～3月8日頃 開催予定

3月	
	整備基本計画 策定

2) 賑わい拠点の具体的な整備方向(案)

① 村全体の復興・活性化に資する中心拠点の役割について

中心拠点の役割について ～ 新たな拠点機能導入に向けての基本的な考え方 ～	■「各地区の元気再生」と「先導する中心拠点の強化」が「エコ・コンパクトビレッジ」の目指す方向性 各地区の元気の再生が大切であり、そのために中心部の役割・機能をどのように強化すべきか、が重要です。 特に、既存機能の復旧のみでは解決できない将来課題に対応可能な機能の強化が重要と考えます。
--	--



② 中心拠点に求められる機能の方向性について ～ 既存機能の復旧とは別に、新たな整備が必要な施設は？ ～

<復興交流館（村民の交流や生活支援の拠点）>

復興への課題	求められる役割	望まれる基本機能 （村民の帰還や定住促進のために最小限必要な機能）	個性やブランドを目指すアイデアの方向案 （付加価値化を目指す方向）	戦略的な機能拡大の方向案 （復興・活性化のために強化すべき村民以外の利用促進）
村民の一体感の醸成	村民が日常的に集まりたいと思う心の拠り所（井戸端・コミュニティスペース）	■まちなか交流サロン（和室、ロビーなど） ⇒心が和む、行きやすい落ち着いた雰囲気づくりが必要 ⇒高齢者に留意した和室等の利用しやすい空間が有効 ⇒多世代交流がしやすい工夫（カフェの併設など）も必要		■多目的イベントスペース（屋外イベント広場も） ⇒様々な企画・展示イベントを仕掛ける集客の場 （趣味等の展示・発表・創作・体験イベント、祭りなど） ⇒集客を支える企画・運営体制の強化が必要 （屋内空間の場合は、常設展示や持続的な企画が必要） （屋外空間の場合は、公園・オープンスペースと併用が可能）
村民の日常的な暮らしを支援する情報発信と生涯学習の環境づくり	便利情報や葛尾村の文化を発信するホットな情報拠点	■常設情報展示コーナー ⇒役立つ便利情報をわかりやすく発信する工夫が必要 （行政・生活支援・イベント・支援団体情報など） ⇒ホットな情報を発信する情報の変化も必要 ⇒情報ニーズを収集し企画する運営体制が重要 ■葛尾村紹介コーナー ⇒外部に向けて葛尾村の魅力を上手く紹介する工夫が必要 （観光・イベント・歴史・産業・物産・サポーター募集情報など） ⇒被災体験と過去の葛尾村への思いを綴ったアーカイブの紹介 ⇒葛尾コンシェルジュ（案内・紹介ガイド）等の育成が有効	■葛尾村郷土文化伝承スペース ⇒郷土の歴史・文化を学べる展示・学習スペース （老朽化している郷土文化保存伝承館機能の移設含む） ⇒楽しく学べる工夫が必要（クイズ、映像、体感など） ⇒語り部や、人形劇スペース等も有効	■AVコーナー ⇒大画面TVによる映像発信は理解しやすく有効 ⇒ある程度の座席や占有スペースが必要 ⇒見たくなる映像プログラムの企画開発が重要
	様々なことを知り学べる生涯学習の場	■PC学習コーナー ⇒PCやタブレット端末で様々なことが学べる場が有効 ⇒機器の利用方法をわかりやすく伝えるプログラムも必要 ⇒子どもから高齢者まで利用しやすいプログラムも必要 （クイズ形式、対話形式など遊び要素の導入が有効） ■図書コーナー ⇒上記に係る様々な蔵書やビデオライブラリー等の閲覧	■エコ・コンパクトビレッジ学習コーナー ⇒自然との共生・資源循環など葛尾文化の紹介 ⇒再生可能エネルギーの学習 ⇒屋外の再生可能エネルギー施設との連携が有効	
放射能に関する適切な学習の推進	放射能を知り学べる場	■放射線量学習スペース ⇒農作物等の放射線を検査するスペース ⇒放射線量情報をわかりやすく情報発信するスペース ⇒放射線のことをわかりやすく学べる情報スペース		
高齢者の安心づくり	村民の健康増進を支援する場	■健康支援コーナー ⇒健康測定機器を利用できる共用スペース ⇒健康増進に役立つ情報を発信する展示パネル	■健康サロン ⇒健康増進機器を利用しながら相談可能なスペース ⇒健康体操やダンス等が可能な健康増進スペース	■健康温水ミニプール ⇒歩行訓練等の健康運動が可能な健康温水ミニプール （子ども等も利用可能なジャグジー設備も有効） ⇒一部交流空間への足湯導入等も有効
	生きがい活動の場（癒しの場）	⇒各種スペースで対応可能 ⇒高齢者主体の活動・イベントの企画を活発化する工夫が大切	■共同菜園 ⇒まちなかの高齢者が土いじりや収穫を楽しめる共同菜園	■ペットとともに楽しめるまちづくり ⇒ペット同伴で利用できる中心拠点施設の拡充 ⇒ペット散策コースやドッグランの整備 ⇒アニマルセラピー団体と連携したイベント実施 ⇒アニマルセラピストの育成も有効
村民の生活を支えあう体制づくり	支援組織の活動拠点	■かつらお復興活動センター事務所 ⇒農地事業復興組合事務所も含む		
	共助体制を活性化する場	■ボランティア団体等交流スペース ⇒フレキシブルな会議スペース（可動間仕切り）		

＜復興交流館（道の駅）と中心部賑わい回遊ゾーン＞

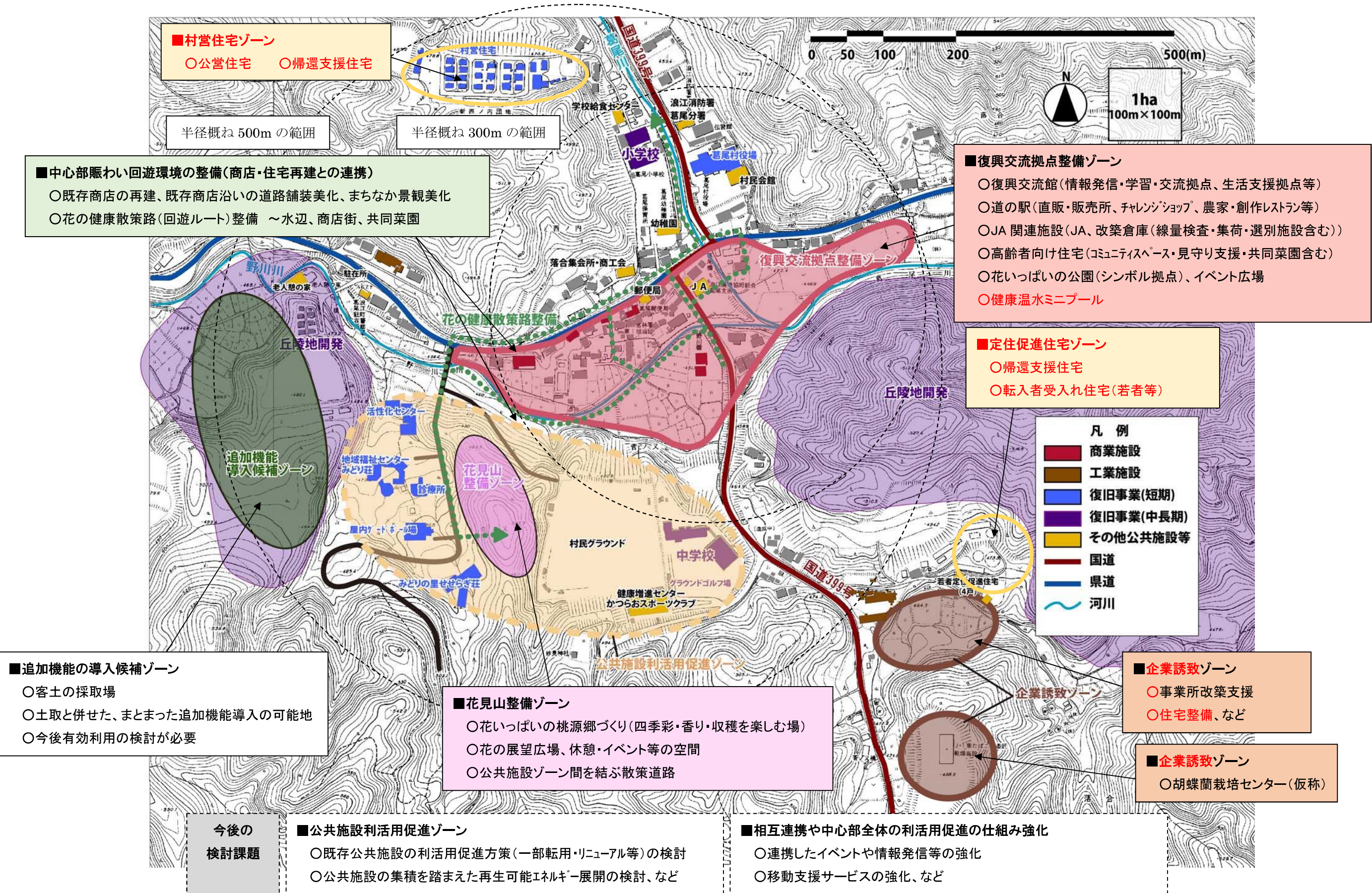
復興への課題	求められる役割	望まれる基本機能 （村民の帰還や定住促進のために最小限必要な機能）	個性やブランドを目指すアイデアの方向案 （付加価値化を目指す方向）	戦略的な機能拡大の方向案 （復興・活性化のために強化すべき村民以外の利用促進）
商業・産業の活性化	既存事業者の活性化につながる装置づくり	■直販・直売所 ⇒集客拠点と連携した商品持ち寄り、販売促進の場 （周辺集落からの庭先集荷も有効） ⇒道の駅的な販売促進の工夫が必要（商品アピールの工夫） ⇒当面は村内の品物循環（シェア）を重視した取組みが有効	■チャレンジショップ ⇒チャレンジショップ空間の導入が有効 （様々な企画・アイデア商品等の展開やニーズ把握につながる） ⇒コンテスト等のイベント導入による外部アイデアの収集が有効	■共同作業所・加工所 ⇒短期的導入には維持費を踏まえた慎重な検討が必要
		■既存事業者との事業連携（商店、商工会、JA、郵便局など） ⇒各種事業への事業参画拡大による既存事業者の再建支援 ⇒帰還が遅れる事業者と連携した宅配・出張販売サービスの実施 ⇒宅配・注文販売等のサービス事業の拡大（リピーター・販路強化） ⇒役場出張所機能、コンビニ的サービス等の導入検討	■農家・創作レストラン ⇒葛尾の風土にマッチした創作レストランの導入が有効 （大豆を活かしたフルコースなど） ⇒コンテスト等のイベント導入による外部アイデアの収集が有効 ⇒屋台村等の夜の交流空間も有効	
		■JA倉庫の改修 ⇒倉庫の改修 ⇒線量検査スペース、集荷・選別設備の強化		
		■胡蝶蘭栽培センター（仮称）		
中心拠点全体の集客強化	シンボル環境づくり	■復興交流館周辺の花いっぱい公園環境整備 ⇒花の映える公園づくり ⇒公園の中の復興交流館づくり	■アーティストの創作フィールドの提供 ⇒パブリックスペース・公共施設へのアートデザインの積極的活用 （固有条件に基づくアーティストのチャレンジ空間）	■まちなかアート・ミュージアムづくり ⇒田んぼアート ⇒自然を活かしたアート ⇒まちなかのトリックアートの導入
		■主要な集客施設を結ぶ花回廊整備 ⇒主要回遊道路の舗装美化 ⇒沿道やオープンスペースにおける花植栽化 ⇒新たな道路の愛称づくり	■主要な集客施設を結ぶ花回廊沿道のまちなみ景観美化・誘導 ⇒まちなみ景観の規制・誘導（ガイドラインに基づく景観誘導） ⇒先導的な魅力ある景観整備（新たな公共施設等に導入）	
		■花見山の整備 ⇒公共サービスゾーンを一体化する花見山公園の整備 ⇒花の展望広場 ⇒ハーブや果樹等も活かした香りや収穫を楽しむ桃源郷づくり ⇒イベントや祭りが可能な広場空間 ⇒公共サービスゾーンが連携したイベント展開も有効	■みんなでつくる里山づくり ⇒みんなで育む植林・植栽 ⇒村復興のシンボル拠点 ⇒毎年植樹等を祝うイベントの開催も有効	
	健康と癒しのまちづくり	■花の健康散策路（歩きたくなる健康まちづくり） ⇒散歩や回遊したくなる花いっぱいの健康散策コース （歩きたくなるまちなかづくり） ⇒万歩計等を活用した歩きの推奨プログラムづくりも有効	■花の健康散策路（健康遊具の設置） ⇒スポットへの健康遊具の設置	

＜その他（高齢者住宅支援、企業従業員の帰還・確保支援など）＞

復興への課題	求められる役割	望まれる基本機能 （村民の帰還や定住促進のために最小限必要な機能）	個性やブランドを目指すアイデアの方向案 （付加価値化を目指す方向）	戦略的な機能拡大の方向案 （復興・活性化のために強化すべき村民以外の利用促進）
帰還を支える住まいの確保	高齢者が安心して集住可能なベースキャンプ	■高齢者向け集合住宅 ⇒高齢者向け集合住宅の整備（共同住宅等） ⇒共同コミュニティスペースや見守りサービスの確保 ⇒周辺で共同菜園等の利用が一体的に可能な方向が有効		
	帰還ニーズ、新たな転入ニーズに対応した住宅の確保支援	■帰還支援住宅 ⇒帰還を支援する公的住宅の提供		■転入者受入れ住宅 ⇒転入者受入れ住宅の整備（若者等）
産業の振興と雇用の確保	既存企業の継続支援と、新たな企業誘致の支援	■既存企業の継続支援 ⇒事業所改築の支援 ⇒住宅整備		
		■新たな企業誘致の支援 ⇒企業誘致場所の整備支援 （仮称）胡蝶蘭栽培センター		

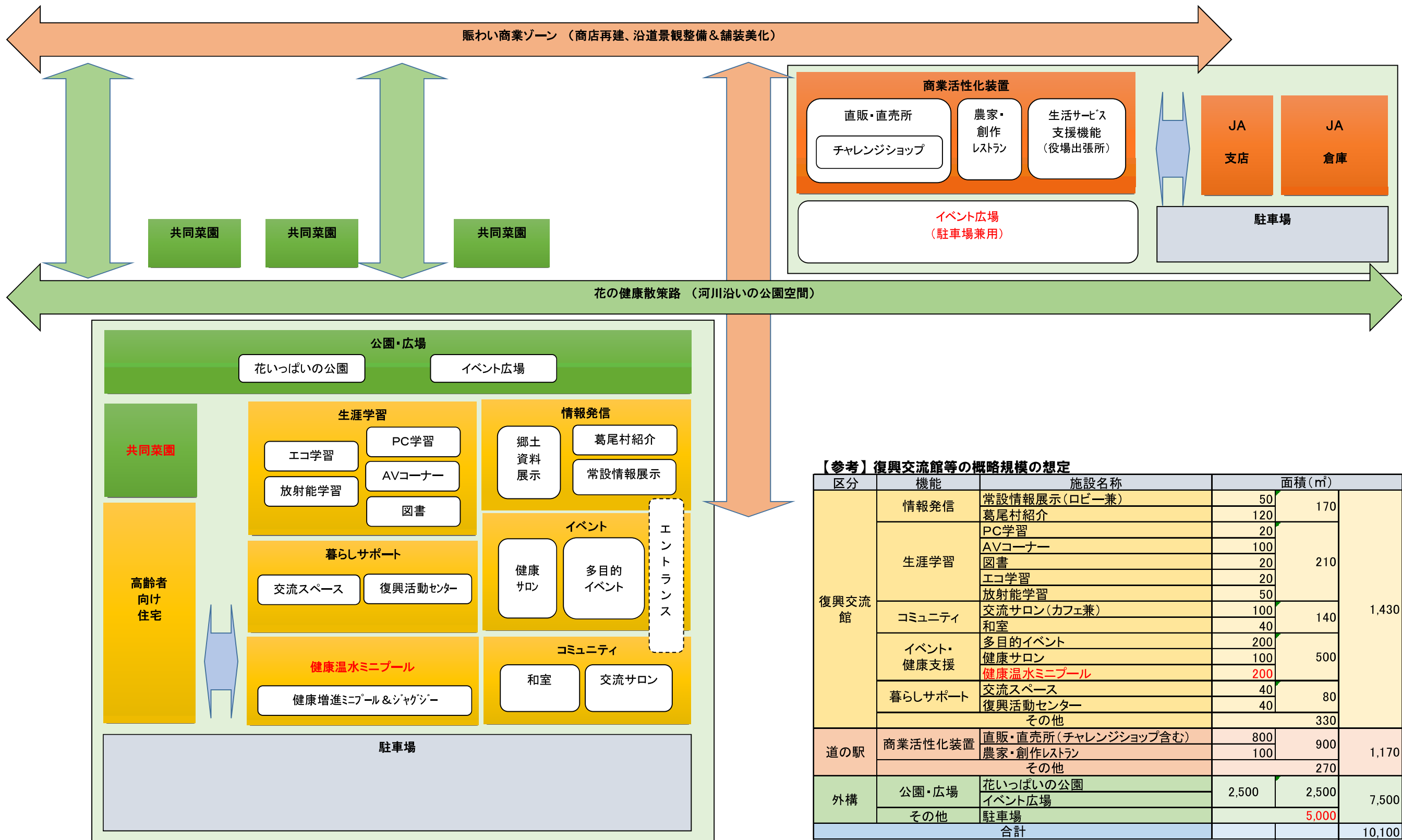
■ 賑わい拠点の全体整備イメージ（案）

取扱注意

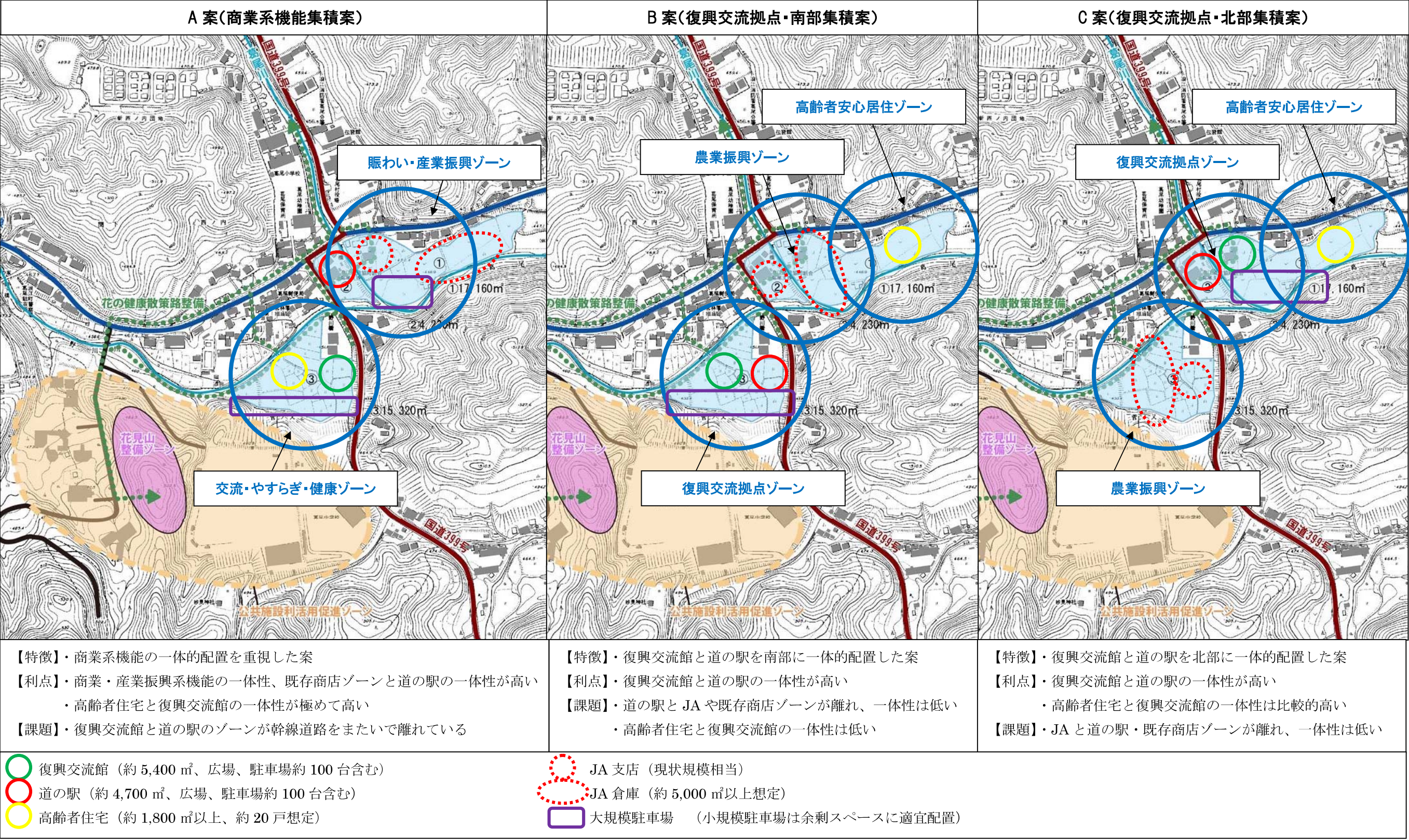


■ 復興交流館等の施設配置構成イメージ（案）と概略規模（想定参考規模案）

＜復興交流館等の一体的な整備イメージ＞



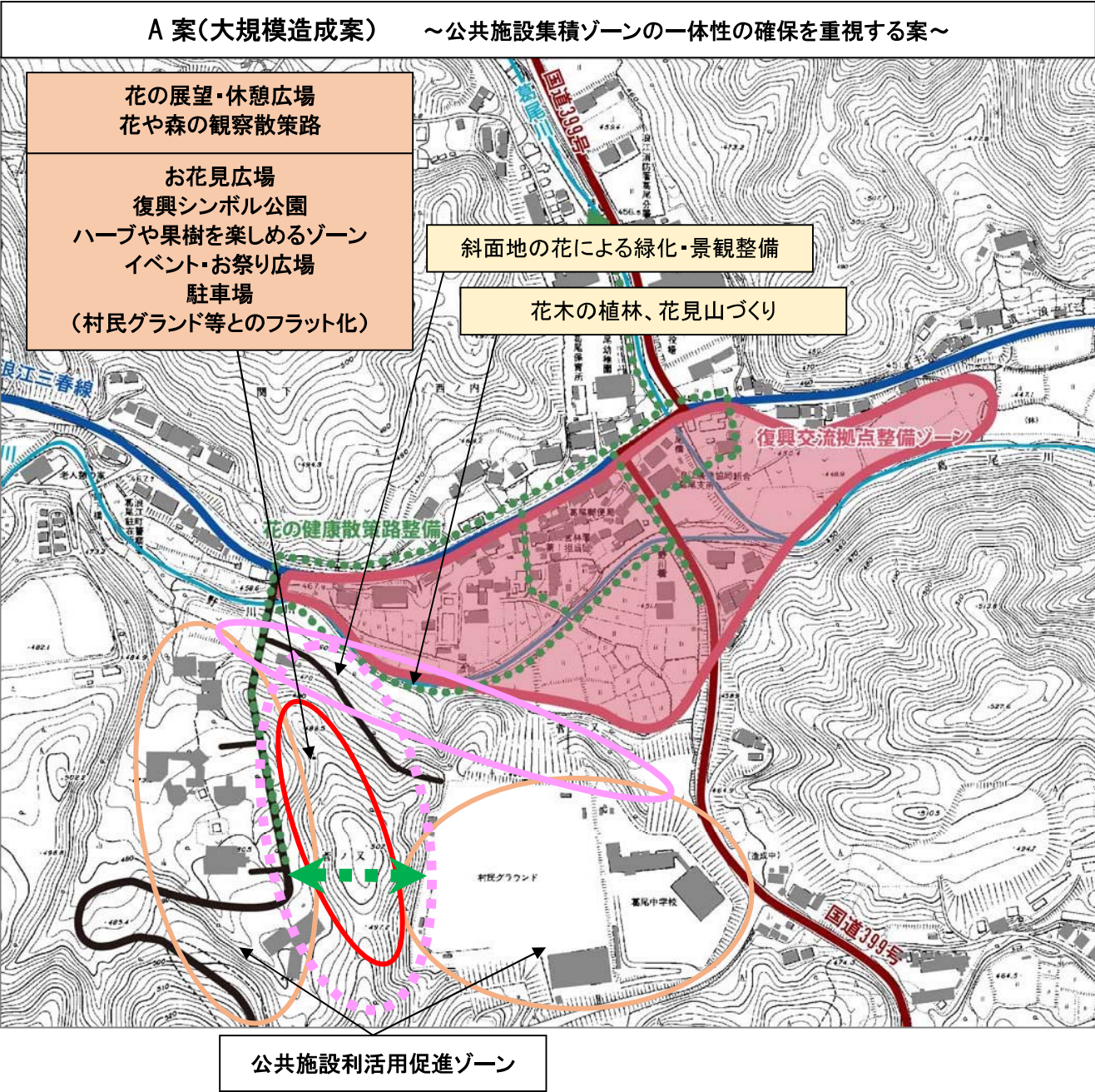
(注) 駐車場規模は約 200 台と想定



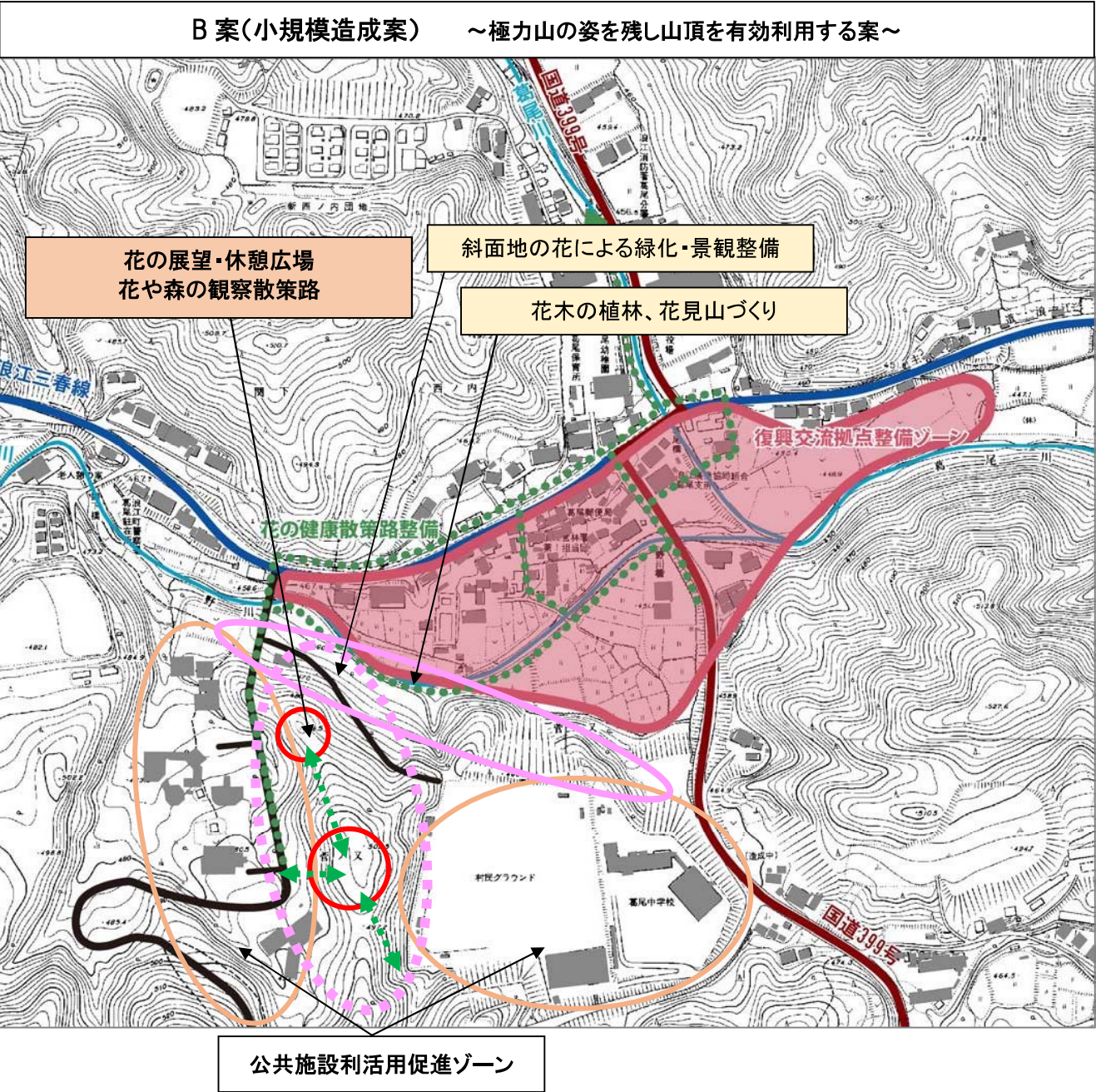
【総合評価】以下の点より、A 案が有効と考える。

- 道の駅機能について、既存商店ゾーンやJAと連携しつつ、既存商業機能の活性化につながる方向が重要であり、A案が一体性に最も優れている。
- 高齢者住宅については、短期的には賑わい機能が享受可能な場所への配置が有効であり、A案は復興交流館や既存住宅・公共施設への近接性に優れている。
- 今後土地取得（借地含む）の可能性を勘案しつつ、具体的な整備区域と施設配置の精査を進めていく。

■ 花見山整備ゾーンの整備方向（案）



- 【利点】・利用可能地は大きく集客効果は比較的大きい
- ・公共施設活用促進ゾーンと概ねフラットで利用可能であり、一体的利用促進への効果大
 - ・中心部との間を隔てる壁がなくなり、視覚的心理的にも一体性が強化される
 - ・平地からのアクセスが容易で高齢者にも利用しやすい
 - ・駐車場の確保もしやすく大規模イベント時等での貢献が期待される
- 【課題】・大規模な造成（切土）が生じ事業費が比較的大きい



- 【利点】・小規模な造成にとどまるため事業費は比較的小さい
- ・既存の山の姿は概ね残る
- 【課題】・利用可能地は小さく集客効果は比較的小さい
- ・中心部や公共施設活用促進ゾーンとは山で隔たれ、利用面・視覚的に分離されたまま
 - ・頂上には車でアクセス困難で高齢者の利用面で課題あり

【総合評価】以下の点より、A 案が有効と考える。

○特に、利用可能地が大きく集客効果が大い点、公共施設活用促進ゾーンの利活用促進や中心部との一体感が醸成されるなど、中心部活性化への大きな効果が期待される。

3) 賑わい拠点に係るソフト施策アクション(案)

■ 賑わい拠点整備と連携した各種交流イベントの展開方向(案)

交流イベント の主な狙い	交流イベントの展開方向		交流イベントの開催の主な場				
	基本方向	プログラム(案)	復興交流館 (広場含む)	道の駅 (広場含む)	花見山 整備ゾーン	中心部賑わい 回遊ゾーン (商店、河川沿等)	公共施設 利活用促進ゾーン
村民の絆の強化	【A】感謝祭(収穫祭)イベント ・村民、サポーター相互の感謝と交流のイベントを開催し、村民・関係者の絆や一体感の強化を図る。 ・併せて、収穫祭を行い、恵みへの感謝と自然と共生する葛尾文化の再認識を行う。	①基調講演 ②復興の各種取り組みの報告(村) ③村民・団体・サポーター等の活動パネル展示と報告 ④優良公益活動への表彰 ⑤収穫物の販売、試食・試飲等のイベント ⑥懐かしい郷土料理の振る舞い ⑦地元関係者による演奏会やカラオケ大会 ⑧葛尾の魅力を伝える語り部の会 ⑨周辺農地・共同菜園での収穫イベント	⑤⑥⑦⑧⑨		⑧	⑧⑨	①②③④⑥⑦⑧
	【B】お花見(植樹祭)イベント ・季節の花を楽しむイベントを開催し、花いっぱいの中郷を指す葛尾文化の発信を行う。 ・併せて、植樹など、花や緑を育成・再生する心を継承していく。 ・イベントAとの複合開催が有効。	①植樹イベント ②花や緑を学ぶ体験学習イベント ③村民・団体・サポーター等の活動パネル展示と報告 ④お花見広場でのカフェやイベント (会場提供、料理振舞、地元イベント開催など)	②④		①②④	①	②③
健康増進	【C】健康増進イベント ・健康増進をテーマに村民が集うイベントを開催し、健康学習の促進と、健康長寿を目指す葛尾文化の発信を行う。	①健康体操 ②健康散策コースウォーキングイベント (スタンプラリーも有効) ③上記イベント後の健康測定 ④健康学習や、講演会 ⑤健康器具の実演・体験イベント ⑥健康食品等のPRと販売 ⑦グランドゴルフ体験イベント	①③④⑤⑦ 健康サロン 多目的イベント広場	⑤⑥	②⑦	② 花の健康散策路	①②③④⑤⑦ 既存公共施設利用
地域の活性化 (産業振興) (観光交流振興) ＝ 若者・子どもたち との交流促進	【D】地域資源を活かしたチャレンジ・イベント ・地域資源を活かして新たなチャレンジを行うことにより、村内活動の活性化と、新たな取り組みの可能性の検証等を行う。	①地域素材を活かした創作料理・工作コンテスト ②地域素材を活かした料理・工作体験イベント ③葛尾の郷土料理等の懐かし体験イベント ④写真・絵画等の「葛尾の良さ」コンテスト ⑤農畜産業体験＋せせらぎ荘宿泊体験 ⑥花を活かしたアート作品コンテスト ⑦創作かかしコンテスト ⑨子どもの押し花、枯葉アート・コンテスト、など	①②③⑥		②⑥	⑦	①②③⑤⑥